

## 【奨励賞】

### 「互いに分かり合う」

北海道教育大学附属釧路中学校

2年 高橋 聖奈子

「北方領土は日本の領土。なのになぜロシア人が住んでいるのだ。おかしい。」初め私はこう思っていた。「私たちの領土を返せ。」きっと日本人の誰もがそう思うはずだ。しかし、あることをきっかけに、「返還を求めるのではなく、和解を求めたい。」そう思うことができたのだ。

私が北方領土について真剣に考え始めたきっかけは、社会の授業だった。テーマは「北方領土をロシア側から返還を求めるか、それとも返還を求めないか。」私はもちろん返還を求める側に挙手した。日本固有の領土がロシア連邦によって不法に占拠されているからだ。逆に返還を求めない側の意見が想像もつかなかった。最初までは。だが、クラスメイトと意見交換をしていくうちに私は自然と「返還を求めない側」の気持ちへと変化していったのだ。返還を求める側の意見は「日本の領土だから。不法に占拠されているのはおかしい。」などの一般的な答えだった。それに対して、返還を求めない側の意見は「ロシア人の今の暮らしを壊してしまうことになる。ロシアの人たちがかわいそうだ。」などのロシア側の目線に立って物事を考えていたのだ。自分の中にはなかった視点であり、すごく心に突き刺さった言葉であった。

でも、そこでまた問題が生じてしまう。「いくらロシアの人たちの生活が大切だと言っても、日本人のことは何も考えずにいいいいのか。いや、それはだめだ。元々は日本固有の領土である。そこも考えなければいけないのだ。すると意見があがる。「ロシアと日本で共通の法律をつくって、一緒に住めば良いのでは？」だが、また問題が起こる。文化の違いがあるため、法律を同じにしまうと、どちらの法律がよいか、裁判が起きてしまうかもしれない。日本とロシア、一緒に住むと言うことはきっと難しい。日本にとってのメリットがロシアのデメリットになってしまう。ロシアにとってのメリットが日本のデメリットになってしまう。とても難しい問題だと思う。

でも、お互いに分かり合い、助け合い、信じ合うことにより、新たな絆が生まれ、その絆こそがロシアとの和解の大きな一歩につながるのではないかと思う。そして両国が共存し合える社会をいつか創り上げることができるはずだ。

そこで私にできること。それは、友人との会話でこの問題を切り出してみる。北方領土問題について両国が気持ちよく過ごせる方法を考える。そして家族や先生、たくさんの人と交流し合うことにより、最高の解決策、いや、和解の大きな一歩を踏み出せると思う。「誰かがやればいい」ではなく「自分から」発信し、それが世界に伝わり、和解へとつながっていくことを願う。いつの日か両国の人たちが、いいえ、世界の人たちが誇れるような和解になりますように。